



# 事務効率・利便性向上や災害対策強化へ パッケージ製品とクラウドで学務システムを刷新 「CampusSquare」を選択、若干のカスタマイズで独自制度にも対応

## 背景

学生や教職員約2500名が利用する学務システムを、事務効率や利便性の向上、災害対策強化などのために全面刷新する。豊富な機能を備えるパッケージ製品を採用し、クラウドサービスとして利用したいと考えた。



白百合女子大学  
教務部  
事務部長  
赤澤 安津子氏



白百合女子大学  
教務部  
教務課  
課長  
みよめ  
見留 香氏



白百合女子大学  
総務部  
情報システム管理課  
課長  
山田 和男氏



白百合女子大学  
総務部  
情報システム管理課  
主任  
松本 敏之氏

## ソリューション

多数の導入実績を持つ新日鉄住金ソリューションズの学務システムパッケージ製品「CampusSquare」を選択。独自制度には若干のカスタマイズを行うことで対応し、NSSOLデータセンターからクラウドサービスとして利用する。

## 成果

成績管理の効率化や休講時の施設管理情報への反映、スマートフォン対応などで事務効率や利便性が向上。クラウド化と遠隔地バックアップ、NSSOLによるシステム監視で災害対策強化や運用負荷軽減も実現した。

## 保守期限が近づいた学務システムの全面的な刷新を検討

白百合女子大学はキリスト教カトリックの愛と平和を目指して奉仕する人格教育を基本理念に置き、2015年に創立50周年を迎えた。学生一人ひとりの探究心や向上心を刺激する多彩なカリキュラムや海外留学を促す独自制度などで、キャリア形成をサポートしている。同大学が、学務システムの全面刷新を検討したのは2011年度である。当時の学務システムは2002年にスクラッチ開発したもので、必要に応じて機能追加を行っていたが、ハードウェアの保守期限が近づいていた。また、東日本大震災をきっかけに白百合女子大学はシステム稼働環境改善の必要性を認識。事務効率や利便性向上へ基本機能が豊富な学務システムパッケージ製品を採用するとともに、災害対策強化やシステム運用負荷軽減のため、クラウドサービスを利用したいと考えた。

## 機能豊富な「CampusSquare」をNSSOLの新鋭DCでクラウド利用

白百合女子大学は2013年半ばに、外部コンサルタントの支援の下、複数のSI事業者提案を依頼。最終的に新日鉄住金ソリューションズ（以下、NSSOL）の「CampusSquare」、および同社新鋭DC（データセンター）から同パッケージ製品をクラウドサービスとして利用する「NSAppBASE（エヌエスアップベース）for CampusSquare」を選択した。CampusSquareは70以上の大学に導入実績がある。基本機能で白百合女子大学のほとんどの要望に対応できるうえ、通年科目の半期認定や各学科が個別ルールで行う科目抽選といった同大学の独自制度にも、若干のカスタマイズを行うことで対応が可能だった。新学務システムの構築は2013年10月にスタート。システム利用部門との綿密な打ち合わせで要望を集約したのち、設計・実装・テストを行った。

## 手作業が削減されてスマホに対応、万一の場合もデータを保護

構築はスムーズに進み、2014年9月に新学務システムは予定通り運用を開始した。これまでのところ、新システムの評価は高い。教員や職員は成績管理などの手作業が減ったほか、講義が休講になると教室が空き状態として施設管理情報へ自動反映されるなど、事務効率が大幅に向上した。また、学外からスマートフォンやタブレット、PCで履修登録ができるようになるなど、学生にとっての利便性も飛躍的に高まった。

また、国内トップレベルの災害対策設備を有するNSSOL新鋭DCでのシステム運用によって災害対策が抜本的に強化された。データは定期的に遠隔地へバックアップされており、万一の場合も保護される。NSSOLの専門要員による24時間365日のシステム監視などによってシステム管理部門の運用負荷も軽減された。

## Key to Success

白百合女子大学が学務システムを全面刷新したのは、大きく分けて二つの要望に対応するためである。

一つは事務効率や利便性の向上に対するシステム利用部門の要望だ。

教務部 事務部長の赤澤安津子氏は「以前のシステムは、導入から約10年がたち、一層の事務効率化を進めることが難しくなっていました」と話す。

教務部 教務課 課長の見留香氏は「教育環境・制度の変化に合わせて追加開発を行っていましたが、独自システムであるため、打ち合わせや検証が大きな負担になり、必ずしも満足に対応できませんでした。学外から履修登録をしたいという学生の要望にも対応したいと考えていました」と語る。

もう一つは災害対策強化や運用負荷軽減といったシステム管理部門の要望である。

総務部 情報システム管理課 課長の山田和男氏は「以前は学内で学務システムを運用していましたが、東日本大震災をきっかけに、より堅牢なデータセンターへ移設したいと感じていました」と話す。

総務部 情報システム管理課 主任の松本敏之氏は「保守・運用に関する学内のとりまとめを一人で担当していましたが、案件が集中すると対応に時間がかかりました。運用を外部委託し、より重要な業務に注力できるようにする必要がありました」と語る。

白百合女子大学が選択したのが、NSSOLの「CampusSquare」を活用したクラウドサービスである。

松本氏は選定理由を「システム利用部門から高い評価を得たことが決定打になりました。また、パッケージ製品の導入、機器の設定、データセンター

までを1社がワンストップで提供する点を評価しました」と振り返る。

CampusSquareは豊富でバランスの良い標準機能と若干のカスタマイズによって同大学の要望に対応できた。

見留氏は「きめ細かな施設管理機能やWebメニューの2カ国語表示など、魅力的な機能を標準装備していたうえ、海外留学する学生向けの通年科目を半期単位で認定する本学の独自制度にも対応可能でした」と話す。

## 要望をNSSOLが正確・詳細に把握 本稼働は拍子抜けするほど静か

NSSOLエンジニアの働きぶりに対する評価も高い。

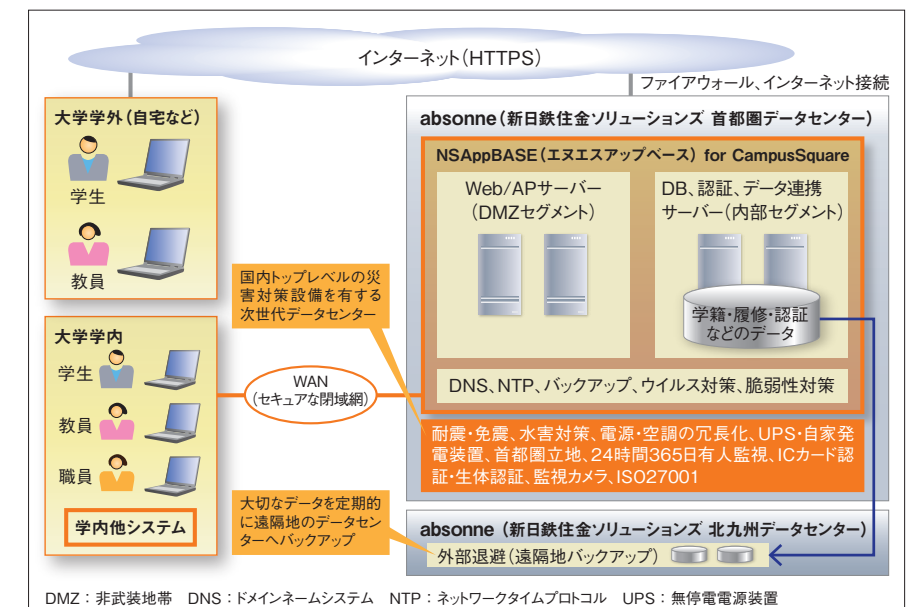
松本氏は「システム利用部門の要望をまとめるため、2013年11月から12月にかけて綿密な打ち合わせを行いま

したが、同席したNSSOLのエンジニアが要望を正確・詳細に把握してくれ、後工程もスムーズに進みました。ユーザーテストも徹底でき、本稼働は拍子抜けするほど静かな滑り出しで、万々に備えた旧システムとの並行稼働も早々に打ち切っています。クラウド化に加え、職員がNSSOLへ直接問い合わせる仕組みが用意されたことで運用負荷も軽減しました」と語る。

山田氏は「NSSOLに依頼して本当に良かったと感じています。学内に残っている他システムサーバーの外部移設などについて、今後も支援をお願いしたいと思います」と話す。

赤澤氏は「新システムによって手作業が一段と減って、事務がスピーディかつ正確に進むようになり、必要な情報を安全に関係者が共有できるようになりました。新システムに慣れていくことでさらに大きな成果が期待できると感じています」と語る。

## ■白百合女子大学が学務システムとして利用しているクラウドサービスの概要



## ■コアテクノロジー

データセンター、スマートフォン、24時間365日の有人監視

## ■システム概要

●クラウドサービス：NSAppBASE（エヌエスアップベース）for CampusSquare（入試、教務、就職、奨学金、ポータルなど）●利用者数：約2500名



白百合女子大学  
所在地：東京都調布市緑ヶ丘1-25  
設立：1965年  
在籍学生数：学部1932名、大学院88名（2015年5月1日現在）